

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503593		
法人名	メディカル・ケア・サービス北海道株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム札幌平岡		
所在地	札幌市清田区平岡8条2丁目4番15号 (電話) 011-886-3660		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年10月23日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】 (20年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 10月 28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人 非常勤 0人 常勤換算	11.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 21,000 円
			暖房費 7,000 円
敷金	有()円・○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○ 有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木内科・柏葉脳神経外科病院・新札幌聖陵ホスピタル・ラビット歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広々とした敷地内に、平屋で日当たりの良い場所に建てられている。広々とした居間は明るく清潔で畳敷きの小上がりの場所もあり、ゆっくり寛げるようになっている。運営者はケアの質の向上を高めるには、職員の研修は不可欠と認識しており、内部、外部の研修参加のほか、運営法人で行なわれた職員公開研修では、事例研究発表会が開催され職員同士のコミュニケーションもよく出来ている。利用者一人ひとりの家族の方々に写真入りのきめ細かな「ホーム便り」を郵送している。24時間対応の医療機関も確保しており、ホームには看護師もおり、利用者と家族の安心に繋がっている。利用者の表情も明るく運営者はじめ職員は尽きることはないケアサービスの質の向上に情熱を持って取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善項目、救急救命訓練については、看護師指導の下、講習を受けマニュアルも作成し、職員全員で取り組んでいる。災害対策についての取り組みは、地域との協力体制構築を期待する。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者はじめ職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。日々実践しているケアサービスを振り返る機会として、会議においても話し合い、職員で共有を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月に一度開催しており、ホームの行事の案内や介護保険についてなど、多様な議題について意見交換が行なわれ、そこでの意見や要望を全員で話し合い、ホームの運営に反映させている。会議記録も整備されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営者はじめ職員は、日頃から家族とのコミュニケーションを大切に、意見箱の設置、来訪時や電話での報告の際、意見を伺ったり、家族会や運営推進会議への参加、また運営法人からアンケートを送付し、意見や苦情を表せる機会を確保している。ホームや行政の苦情相談窓口を明確にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との関係は良好で町内会に加入し、地域の行事に参加をしたり、ホームの行事に来ていただいたり、また絵手紙を教えに来てくださる方もおり、地域とホームの絆の強化に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時から、地域密着型サービスの理念を掲げ、地域の方々とのふれあいを大切にし、住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るように支援し、日々のケアに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に運営理念を掲げ、職員のタイムカードの裏にも理念を明記してあるほか、運営者はじめ職員は毎日の朝礼時に復唱し、確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は良好で、町内会に加入し、地域の行事に参加したり、ホームの行事に来ていただいたり、また絵手紙を教えに来てくださる方もおり、地域とホームの絆の強化に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者はじめ職員は、評価の意義と活用の仕方を理解しており、今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。日々実践しているケアサービスを振り返る機会として、会議においても話し合い、職員で共有を図っている。		

札幌市清田区 愛の家グループホーム札幌平岡

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に一度開催しており、ホームの行事案内や介護保険についてなど、多様な議題について意見交換が行なわれ、そこでの意見や要望を全員で話し合い、ホームの運営に反映させている。会議記録も整備されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者会議に出席し情報交換したり、区の担当者とともに必要に応じて連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した際や電話で利用者の暮らしぶりを報告しているほか、利用者一人ひとりの家族の方々に写真ときめ細かい内容が書かれた「ホーム便り」を郵送している。またお便りと一緒に金銭明細もお知らせしている。年2回の家族会でもホームの活動状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置しているが、家族が来訪した際に意見や要望を伺ったりしているほか、運営法人から家族の方々にアンケートを送付し、その結果の報告があり、運営に反映させている。玄関に設置している連絡ボードは、家族の方々からのアイデアを参考にしたものである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動は極力避けるよう努めているが、やむを得ない離職の際は、十分な引継ぎ期間を設け、情報交換を密にし、話し合いを持ちながら職員全員で対応し、利用者が不安を抱かないように配慮している。家族の方々にもお便りや玄関ボードで報告している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員が内部、外部の研修を受ける機会を設けており、運営法人で職員公開研修会を行ない事例研究発表会を開催している。研修記録も作成されている。運営者はケアの質の向上を図るためには、職員の研修は不可欠と認識している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム交流会に参加し、職員同士意見交換を行なっている。また近隣のホームと相互訪問を行ない、サービスの質の向上を図る取り組みを行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、利用者や家族の方々にホームを見学していただいたり、ホーム側が自宅を訪問したりして、利用者が安心して生活出来るよう、十分話し合いを持ちながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線でともに支え合う関係を大切にし、一緒に楽しんだり、昔のことを教えていただいたりしながら、和やかな関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との毎日の生活の中で、一人ひとりの思いを大切に、利用者や家族からの生活歴の情報なども把握し、その人らしい生活が出来るよう、希望や意向に沿えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を尊重し、日常的に行なわれている意見交換やカンファレンスで、職員の気づきを集約して、介護計画に反映させている。作成後は、家族の同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヵ月を目途に、アセスメントの見直しや10日に一度のモニタリングを行ない、カンファレンスで課題や改善点を話し合いプランを作成している。状態の変化や入退院時の際は、利用者、家族、医師と話し合いをしながら計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院介助や買物に付き添うなど、その時々で柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは、複数の医療機関との連携が出来ており、24時間対応のほか、2週間に一度の往診が実施されている。またホームには看護師もおり、利用者の状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している。医師が認知症に詳しく往診の際に職員は相談もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みについては、対応指針を明記し説明、同意を得ているが、利用者、家族、医師、ホームと十分な話し合いを持ち、職員全員が方針を共有し、家族の気持に配慮しながら、その時々慎重な取り組みをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性を認めて、プライバシーを損ねる言動を取らないように配慮している。また個人情報の取り扱いについても同意を得ており、書類の保管場所も決め適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりの声に耳を傾け、その日の体調や希望に合わせ、日々その人らしい暮らしが出来るよう買物や散歩、趣味など、希望に沿うよう見守り支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	BGMが流れる中、職員も一緒に食事をし、さりげなく介助したり、声掛けしたり、見守ったりしている。せかすことなく、ゆっくりとおいしそうに食事をしている。食事の準備や後片づけは、出来る範囲でお手伝いをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴支援を行なっている。入浴を拒む方は、入浴剤や声掛けに工夫し、楽しく入っていただくよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や家庭菜園、食事の準備、後片づけ、洗濯物たたみなど、得意とすることを自由にしていただき、さりげなく見守ったり支援している。絵手紙作成を楽しみにしている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内だけで過ごさず、毎日の散歩や買物、車での外出、ホームの庭で行なう行事への参加など、利用者の希望を取り入れながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや工夫により、日中は鍵を掛けないケアを実践している。また事務室が玄関近くにあり、出入りが把握できるようになっている。		

札幌市清田区 愛の家グループホーム札幌平岡

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。防災マニュアルも作成されており、毎日の「防火点検表」により注意を払っている。非常食も用意しているが、職員の数が少ない夜間での対応は、まだ十分とはいえません。	○	夜間を想定した緊急時の取り組みを期待するとともに、地域住民の方々の協力体制が近いうちに実現できることを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営法人の栄養士による献立及びカロリー計算が行なわれており、バランスの良い食事が提供されている。水分摂取量や食事の量もチェック表に細やかに記載され、職員が一目で確認できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間は清潔で掃除も行き届いている。ソファのほかに、畳み敷きの小上がりの場所もある。廊下にも椅子が置いてあり、思い思いの場所で寛ぐことが出来るようになっている。ベランダにも出ることが可能でパラソルの下で日光浴も可能である。不快な臭いもなく、心地よい共用空間の中で、ゆったりとした暮らしが営まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、備え付けのタンス以外は利用者の馴染みの物が持ち込まれ、置き場所もそれぞれ工夫し、居心地の良い安心した暮らしが出来るよう配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。